

大学の思い出



山崎 浩一

経済学部

経済学部留学生

ティニー グミ オンコウィナルト
Tinny Gemi Ongkowitz



4年前の春、広島に来ました。4年間のでき事を思い出してみれば、胸がいっぱいになります。

1年生の時、はじめて日本語で授業を受けた時、先生の話はほとんど聞きとれませんでした。広島大学に入学する前に、約1年間ぐらい日本語を勉強したにもかかわらず、大学の先生の話はなかなか聞きとれませんでした。当時、私と同じように、経済学部には他の2人の留学生がいました。LEE POH LOONさんとFAZARINさんです。先生の話は聞きとれなかっただけではなく、先生の字が読めないこともよくありました。幸い、LEEさんが漢字が上手なので、よくLEEさんに漢字を教えてもらい、授業の内容がわからない時は、よく先生の研究室に聞きに行きました。

語学の面でハンディーがあると自分でわかったので、毎日毎日頭の中で、どうすれば早く日本語がマスターできるのか、どうすれば先生の話が聞きとれるようになるのか、ということしか考えていませんでした。

そして、夏休みに入って、いままで日本語や授業のことばかり心配していたので、日本人の同級生と付き合う時間がなかったとはじ

めて気がつきました。私は授業を受ける時は、いつも前列で1人座っていましたが、寂しいと思ったことがよくあり、生まれて初めてこのような気持ちになりました。けれども、寂しい時、勉強ができない時、留学生の先輩や同級生がたくさんいて、助けてくれました。また生活についてもいろいろ教えてもらい、日本の大学の生活にもなれ、他の学生達と同じように頑張る勉強ができるようになりました。

一昨年の6月の大学祭ではマレーシアの学生と店を出しました。自国の料理を他の学生達に紹介しました。メンバーの中には男性が多く、彼らの厳しいチェックを受けながら、夜が明けるまでマレーシアのカレー・ミー（カレーそば）、カレー・パフ等を作りました。皆が生き生きと働き、先生や友達にがんばってね！おいしかった！と励まされ、疲れたけれど、とても楽しく、よい思い出になりました。

去年の春、4年生になり、3年間がんばってきたかがありました。卒業するための単位はほとんどそろった時、はじめて自分が卒業できそうだと自信がもてました。一日も早く卒業論文を書き終えるように努力しました。

この4年間の学生生活でいろいろなことを勉強してきました。日本で見た事、体験した事は一生わすれないでしょう。年をとったら、留学時代の思い出を子供や孫に伝えようと思います。

最後に、卒業を前にして、いろいろと教え導いて下さった先生方（私の事もうわすれていらっしやるかも知れないけれど）、経済学部の学務係の皆様、先輩、同級生、そして後輩達には、厚くお礼を申し上げます。いつか、どこかで、お会いできる日を楽しみにしております。ありがとうございました。